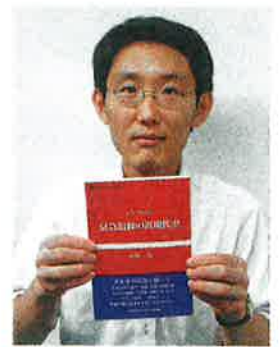


小堀さんが古本屋で見つけた資料。一部著書にも掲載(名古屋大学所蔵)。上/京浜電気鉄道・湘南電気鉄道『京浜湘南沿線案内』(1934年)、中/同『三浦半島めぐり』(40年)、下/湘南電気鉄道『湘南』(30年)

京急大津駅 沿線の新しい歴史を発掘 横須賀生まれの研究者

小堀 聡



横須賀市出身。名古屋大学大学院経済学研究科准教授。『京急沿線の近現代史』(クロスカルチャー出版)が第45回交通図書賞(歴史部門)を受賞。「鉄道整備と地域開発の関わりを明らかにした」と講評される。

子

どものころ、京急大津駅近くの
の大津書房で漫画を立ち読みしては、店主のおばさんに叱られた……。この書店を出版社の担当が知っていたことに縁を感じて、『京急沿線の近現代史』の執筆を引き受けたという小堀聡さん。

「海に注目した沿線史です。日本は資源を臨海部に集中させることで高度成長を果たしましたが、京急沿線の発展は、その典型的な例。東アジアで最も早いといわれている開発事例で、のちに『東アジアの奇跡』と呼ばれる経済成長の先駆者と位置づけられています。開発が早かったがゆえに、都心に近く、江戸時代から続く庶民の行楽文化とも深く結び付いているのが特徴です」
本書では「川崎―初詣からハンマーへ」「上大岡―杉田―戦後開発

の優等生」など、区間ごとにテーマを設けて歴史を紹介。羽田に開設された1万人規模の巨大な海の家や砂浜のない新子海水浴場など、京急沿線のトリビアも。

「今回掲載できなかった横須賀の海軍とジャズとの関わり、坂本龍馬の妻・おりようさんの旧居跡や菩提寺など、まだまだ魅力的な要素がたくさんあるので、いずれ紹介したいですね」

工業や産業の変化、リモートワークなど人々の働き方が変わる今、京急沿線の次なる発展は？
「海だけでなく、山の利点も取り入れた観光や暮らしの可能性を感じます。地元で取れた農産物を販売する横須賀市長井の『すかなごっそ』を好例として、地産地消の6次産業に期待を寄せています」

2019年
(平成31年)
2月1日(金)号
No. 607

発行：株式会社タウンニュース社 <https://www.townnews.co.jp>
編集室：〒238-0032 横須賀市平作 1-12-8 TEL：046-850-1290 (代) FAX：046-850-1281

発行責任者：宇山 知成
編集長：安池 裕之

15万円以下の中古軽自動車専門店

下取り 買取OK、廃車引取も無料

あすか自動車

☎046(884)9736
☎090(3813)6219

小矢部1-23-16(10:00~18:00)
展示場 緊急入込 任意車検あり

2019年2月23日(土曜)

クロスカルチャー出版 <http://crossell.com>

120年の京急をひもとく、京急の魅力をとっぷり紹介

京急沿線の近現代史

【最新刊】小堀 聡(文芸春秋・横須賀市出身) ●定価1,800円(税別)

今の京急ラッシュに送る博覧の二冊。歴史から設計、運用、羽田、川崎、川崎大師まで、乗り継ぎ、土曜、金欠、入線、退場まで、乗客・運送員、乗客・写真・図説を分かりやすく解説した、目から口が出る読物。まさしく、愛の書に違いない。小さな旅に出よう。

【絶賛発売中】 京急沿線の近現代史 小堀 聡 著 定価1,800円(税別)
 【好評既刊書】 京急沿線の近現代史 小堀 聡 著 定価1,800円(税別)
 【好評既刊書】 小田急沿線の近現代史 小堀 聡 著 定価1,800円(税別)

東京都千代田区神田環状町2-7-6
〒101-0064 ☎03(5577)6707 五見本

京急沿線のまちづくり

大津出身の小堀氏著

大津町出身で現在、名古屋大学大学院経済学准教授の小堀聡さん人物



風土記で紹介が、このほど京急沿線電鉄沿線の経済史とまちづくりに焦点を当てた「京急沿線の近現代史」(クロスカルチャー出版/税抜1,800円)を刊行した。写真、随筆、工業地帯の発展とともに変化する沿線地域の生産活動や生活を1冊にまとめた。

文芸春秋横須賀モーターズ 店、金堂書店、横須賀書店、西浦書店で販売中。

好評発売中

小堀 聡著『京急沿線の近現代史』
著者紹介・著書紹介・広告

クロスカルチャー出版

人物風土記

題字は 上地克明市長

○…京急沿線電鉄120年の沿線史を1冊にまとめた。車輛のカラーを模した表紙は鉄道ファン向けかと思わせるが「幅広い方に読んでほしい」と微笑む。沿線各地の経済発展や生活を、京急電鉄を時に主役に、時に脇役にしながら書き上げた。

○…大津中から横須賀高校へ。京都大学、大阪大学大学院へと進み、卒業後は名古屋大学大学院で経済学の准教授として勤務する。研究者としての原点は高校3年の時、通っていた予備校の日本史の先生との出会いだ。政治や文化、歴史的事象

には経済的な動きが影響を与えている、という考え方を「自分が学びたいのは経済史だ」と道を決めた。同書のような店の存在を、企画書の方

書き下ろしは初めてだが「私立学生の時に、足を運んでいた地元の大津書房という教坪しかない書店の存在を、企画書の方

が知っていたことに運命を感じた。執筆を決めた。○：「生まれ故郷について書くのは、さすがに力が入った。20世紀末を挟み人口減少に軽くなった須賀の開港感や、砂浜の消えた馬堀海岸と残る逗子海岸の比較など、この地で育っているからこそ

の視点も随所に散りばめられている。「18年間」してきて抱いた疑問や違和感に対して、ひとまずの答えが出せた」と晴れやかだ。

○…横須賀は、都心中心と地方(周辺)の両方に位置している。この地域では、社会的に新たな価値観が生まれやすい。1955年に三浦半島自然保護の会が設立されたのもその一つ。開発がすすむ中、自然を残そうと団体が立ち上がったのは三浦半島ならではの動きであり、当時は画期的だった。「中途半端」こそが魅力。今後さらに変化があるまわると故郷の未来に期待を寄せる。できるなら30年後の沿線の姿もまた書いてみたい」



京急沿線沿線のまちづくりに焦点をあてた「京急沿線の近現代史」を刊行した

小堀 聡さん
大津町出身 39歳